

災害史に残る『歴史的豪雨』～命を脅かす危険な豪雨!!～



岐阜県高山市の河川氾濫!!

"平成最悪の水害"と呼ばれた『西日本豪雨』(平成30年7月)から僅か約2年後の現在、『令和2年7月豪雨』が局所的に甚大な水害をもたらし、熊本県を流れる「球磨川」が氾濫し広範囲で浸水。その後、東日本にも大雨の被害が拡がりを見せ、岐阜県を流れる「木曽川水系飛騨川」が氾濫し土砂災害等が発生しており、その翌週にも中国地方を襲い島根県を流れる「江の川」が氾濫し、広島県でも大雨災害が起きており、死者・行方不明者も増加し広範囲での浸水および冠水、土砂等による被害は各地で起きており、特徴は長い期間に亘って断続的に雨が降り続く傾向にあります。

異常気象による冬の記録的な『暖冬』が大きく影響か!!

令和2年の豪雨が記録的な降水量になった原因として、昨年から今年にかけての冬の時期に記録的な"暖冬"だった事が大きく関係していると考えられます。暖冬の年には、冬から海面水温が高くなり、今の時期も平年より高くなっています。海面水温が高いと水蒸気量が多くなるため、梅雨前線に大量の湿った空気が流れ込んで前線の活動が活発になり、降水量が多くなったと考えられます。海面水温が豪雨に影響しているのは、今回の豪雨だけに限った事ではありません。昨年、東京都を含む13都県でも『大雨特別警報』が発表されています。

昨年の長野県千曲川決壊「令和元年東日本台風(台風第19号)」をはじめ、2年前が「平成30年7月豪雨(西日本豪雨)」3年前が「平成29年7月豪雨(九州北部豪雨)」等があり、ここ数年は毎年のように人的被害が大きい"災害レベル"の自然の猛威を常に感じています。

もしもの時に備えを万全に!!



今後も、梅雨明け後からの8月～9月にかけては『台風シーズン本番!!』を迎え、新たな災害の恐れも心配であります。今から出来る事として、ハザードマップ(被害予測地図)を確認したり、防災グッズ(非常袋・防災袋)を準備したり、新型コロナ感染予防に関する予備マスクおよび消毒液等も、万が一に備えて事前に持ち運べる準備(用意)はお早めに。

何よりも『各情報を確実に入手!!』するためにも"大雨警戒レベル"および"非難情報"が詳しく通知されるアプリ等を携帯電話に登録することで、これまで以上に私たち一人ひとりが「自助…自分で守る」および「共助…周り助け合う」を考える必要性がより一層高まっています。

新型コロナ感染が被災地域に更なる不安を与える事態に!!

熊本県(8つの市町村)等の豪雨災害の被災地(避難所)に派遣されていた、高松市の保健師が新型コロナウイルスに感染したことにより、今後の他県(自治体)からの支援職員派遣に関しても『PCR検査』『抗原検査』等の必要性が出てきました。被災地の影響を考えると、避難を余儀なくされている方々には「自宅が被災」その上に「新型コロナ感染症の不安」も重なり、心身共にダメージを抱えてしまう事になり、被災地域には緊張感が更に増しています。



保健師さん達も必死に!!

住みいる共済 は、火災による災害を主に保障する『火災共済』と

風水害や地震等への備えが充実した『自然災害共済』の2つの共済を合わせた呼び名です!! 火災共済に自然災害共済をセット加入することで、火災だけでは

なく地震や昨今急増している異常気象による様々なリスク(危険)もカバーします!!



Point

被災地域に二重苦!!新型コロナ感染の不安 & 令和元年東日本台風の爪痕!!

令和元年東日本台風(台風第19号)

死者5人・被害総額2300億円越えのその後は……



自然の猛威を思い知らされる現実!!

昨年の10月12日に、長野県に最接近した台風第19号は長野県東北信地域・千曲川流域に多くの被害(水害)等をもたらし、堤防決壊の周辺は津波に襲われたような破壊(倒壊)された家屋が建ち並び、被災当日のままの状態に近いままの場所が多く存在し、未だに復興には程遠い状態であり現在も尚、官民が連携しながら被災地復旧に向けた取り組みが連日続けられています。

その中で、被災した建築物に多く使用されている『アスベスト』について、長野県および長野市等の行政当局側は、表向きには"ホームページ"等で注意喚起を呼び掛けてはいますが、被災住民・業者・ボランティア等が建築物の解体作業や搬出・運搬作業に従事する際に「建材に含有するアスベストの取扱い」を規制する措置等に関しては何も取られていません。

特に被害が深刻だった長野市を流れる『千曲川沿い地域』には、全国各地から約6万2千人を超えるボランティア(金沢市従労組合員も含む)が駆け付け、住宅内の清掃および泥出し作業、家財搬出等の作業に従事しました。

この際にもアスベストを含んだ床や壁の建材解体および仮置場への運搬時にもボランティアが行うケースが多々あり、早急な"アスベスト曝露後対策"が当初から求められていました。

アスベストの危険性がある作業!!

発災直後から、地元地域の被災者宅の災害廃棄物指定仮置場となっていた千曲川堤防決壊地点に近い『赤沼公園』が、昨年12月15日に瓦礫(がれき)の受け入れが中止となり、山積みされていた災害ゴミに関しては富山県および三重県等の民間事業所へ搬出されることになり、現在はアスベスト含有が懸念される「石膏ボード」置場に破片が散在しているほか、ガソリン類および農薬類等の危険物も今も尚、残存しています。



赤沼公園の当時のゴミの様子!!

これから起こりうる災害時における、被災家屋の片付け等に従事する住民およびボランティアに対し、アスベスト等を遮断できる『防塵マスク(DS2マスク等)』の配付や告知、アスベスト対策の認識をより深めることや、啓発の徹底を図る等の万全な対策を常に準備しておくことが大変重要であります。

夕方から鳴り続ける携帯電話の「避難勧告アラーム」の瞬間に濁流と共に街全体を飲み込んでいく自然の猛威で、一夜にして「絶望」と化した長野市(穂保地区・千曲川)はライフラインもストップし、情報交換できる手段はリアルに人と人とのコミュニケーションのみという状況に……SNS等の発信等で多くのボランティアや各支援により復旧活動は進んで行くが、これから先も何年もの時間と気力・体力が奪われていく事は間違いありません。

長野県と言えば「林檎」が真っ先に頭に浮かびますが、この林檎の木も1本の苗(普通樹)を植えた場合で、実を付けるまでに5年～10年(本格収穫には15年～20年)が必要だそうです。台風19号の影響で、決壊した千曲川支流付近で大きく育った林檎の木が、濁流により倒木となりほぼ壊滅状態(廃棄処分)となっています。高齢化が進む一方で、経営規模も小さな農家が多い信州には是非とも粘り強く頑張ってください、長野県は特に『ゴミ排出量の少なさ』ランキングで平成26年度から平成30年度調査まで"5年連続日本一"の実績もあるので、1日も早い空気が綺麗で自然豊かな環境と美しい風景を取り戻して欲しいと心より願うばかりです。

自治労

N市従労NEWS

第129号

発行2020年8月3日

金沢市従労組 情報宣伝部